

シリーズ「グローバル・ジャスティス」 第13回

「アジア太平洋戦争期の朝鮮人皇軍兵士 - 総力戦下のレイシズム」

Koreans as Japanese Soldiers during the Asia-Pacific War: Racism under Total War



Takashi Fujitani

グローバル・スタディーズ研究科 教授

本講演では、アジア太平洋戦争中に制作された映画や文学作品等における「朝鮮人志願兵」の表象分析を通じ、総力戦体制下にあった日本植民地帝国のレイシズムの変容を考察する。戦時日本の植民地支配下では、被支配者に対する露骨な暴力（例えば性奴隷制度や強制労働など）が激しさを増していた一方、公式政策上では、自らの民族差別と暴力を否認（disavow）する新たな形態のレイシズムが同時に支配的になりつつあった。講演では、総力戦体制下日本のレイシズムは、ナチス・ドイツよりもアメリカ合衆国と類似していたことをグローバルな視点から明らかにする。

同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科では、連続セミナー「グローバル・ジャスティス」を開催いたします。このセミナーは、現代世界が直面するさまざまな課題における「ジャスティス」の問題を、講師が自らの視点で語っていくものです。したがって、どのような視角で、何を問題としてジャスティスを論じるかは講師にゆだね、主催者は一切の方向性をあらかじめ規定いたしません。ジャスティス（正義）という言葉のもつ多義性や問題性もふくめて、多様な議論の場として提供していくものです。

日時： 6月16日（木）

18:30-20:00

会場： 講武館 104 番教室

共催：同志社コリア研究センター

来聴歓迎・予約不要
（日本語講演）

同志社大学
グローバル・スタディーズ研究科

tel. 075-251-3930

e-mail. ji-gs@mail.doshisha.ac.jp